

田中鉄工 株式会社

バイオマスを資源化し、地域と共に循環型社会を構築!
共創パートナーと連携し、カーボンニュートラルの実現に貢献して参ります。



田中鉄工 株式会社
村田 満和 代表取締役CEO

■会員DATA

佐賀県三養基郡基山町小倉629-7
TEL 0942-92-3121
HP <https://tanaka-iron-works.com>



田中鉄工全景

当社は、道路などに使われるアスファルト合材を作る「アスファルトプラント」のメーカーです。2018年に創業100年を迎え、2023年から「脱炭素経営」に取り組んでおります。

アスファルト合材は砕石や砂、石粉などの骨材と、石油を原料とするアスファルトを混合したもの。プラントは材料を混合するミキサーや一時貯蔵用のサイロ、骨材を加熱乾燥するドライヤーなどで構成されますが、当社はそのほとんどのパーツを自社で製造し、サプライチェーンと共創してさまざまな工夫でGHGの排出削減に努めています。

例えば、Scoop1・2においては、本社工場の使用電力をCO₂フリー電力にしたほか、フォークリフトや場内トラックなどの工場内重機を電化、シールドガス(炭酸ガス)が不要なレーザー溶接機の導入も進めています。Scoop3においてはバイオマス燃料の活用です。現在、国内15基のプラントに廃食用油を燃料として供給、2027年度中に60工場に拡大する予定です。

私たちが取り組む脱炭素化は、社会的価値と経済的価値を高め、ひいては企業の持続的成長につながると考えています。気候変動や環境課題への対応が求められるなか、「サーキュラーエコノミー」と「ネイチャーポジティブ」の発想を事業に取り入れ、製品の競争力を磨き、新しい価値創出へと発展させてきました。今後も共創パートナーと連携しながら、これらを軸とした新しいビジネスを加速させ、持続可能な未来をともに築いていきます。

今後の展開としては、バイオマス燃料の利活用を推進したり、アスファルト合材を製造する際に発生する二酸化炭素を回収して農水産業に活用したり、低炭素素材として道路に固定したりする「I-BECCUS」という技術を開発しています。

佐賀市は二酸化炭素利活用を先駆的に進められ、協議会ではメンバーのマッチングで新しい試みもなされていると認識しています。私たちも、他の会員の方々の知見や技術を活かしつつ、自社の技術も提供しながら、脱炭素を加速していきたいと考えます。



GXプラント施工例「ブルーアステック(石川県川北町)」



UCO(Used Cooking Oil)タンク

新会員紹介

会 員 名 一般社団法人バイオDX推進機構

所 在 地 広島県東広島市鏡山3丁目10番23号

事業内容 一般社団法人バイオDX推進機構は、生物がもつ遺伝情報を解説・解析する生物のデジタル化とゲノム編集による生物のプログラミングを組み合わせた、「バイオDX」によるイノベーション創出を目指しています。



一般社団法人バイオDX推進機構

<ミッション>

- ①地域バイオコミュニティ形成
- ②産学共創プロジェクト
- ③スタートアップ支援
- ④社会動向調査(ELSI、知財、ビジネス)
- ⑤社会コミュニケーション
- ⑥バイオDX人材の育成・教育

【BCC今後の予定】 [11月] 藻bioオープンイノベーションミーティング
[12月] 協議会セミナー

【編集後記】

「近況」で取材させていただいた田中鉄工(株)は、協議会の名称変更後、第1号の入会者です。「脱炭素経営」のスタートは2023年とのことですが、すでにさまざまな事業・業務でCO₂削減を実現されており、そのスピードに驚かされました。「本気度」の高さに圧倒された取材でした。(事務局)



一般社団法人
バイオサーキュラーエコノミー協議会
〒849-0917 佐賀市高木瀬町長瀬2369 佐賀市清掃工場
(佐賀市GX推進課内)
TEL 0952-33-2398 FAX 0952-30-2494
E-mail : info@saga-abc.jp